

第2回 南幌町総合計画策定審議会<議事概要録>

日 時 令和8年3月30日(月)
午後2時から午後3時24分
場 所 役場3階 各種委員会室

出席者	委員：9名 木村会長、磯野副会長、酒井委員、高島委員、田中（薫）委員、林委員、増田委員、山下委員、吉田委員
	町：3名 齊藤課長、草訳課長補佐、加藤係長
	(株)北海道二十一世紀総合研究所：4名 菅原研究員、高松研究員、柚木研究員、岩谷研究員
欠席者	委員：5名 竹山委員、田中（勝志）委員、永原委員、本間委員、若杉委員

1 開 会 事務局	<p>（開会前に前回欠席された委員から自己紹介をいただいた。） ただいまより、第2回南幌町総合計画策定審議会を始めます。開会にあたり総合計画策定審議会会長であります木村会長よりご挨拶をお願いいたします。</p>
2 会 長 挨 拶	<p>皆さんこんにちは。 前回、雪で中止になって、今日が2回目となります。今回は、アンケート調査や、私も出席しましたがフューチャーデザインの勉強会などの内容を説明いただきながら、進めさせていただければと思います。 私自身、地域創生に40年以上関わっていますけども、地元に住む皆さんが好き、楽しい、面白いをどう実現するのかというところに尽きると思っています。そのために、学術的に言いますと、順番を間違うと、せっかくやっても意味がありませんので、順番をどのようにするのか。整えるのかという話があります。 二つ目は、固定観念にとらわれて、どうせやったらって無駄であるとか、無理だよと言うのではなくて、どのようにすればそれが実現するのかという視点で考える。それと、やはり何でもかんでも行政ではないですし、何でもかんでも民間ではない。どのように役割分担をしていくのか。その主体をどこに置くのかという</p>

	<p>ところだと思っています。その中では、第2回目として実り大きい審議会になることを祈念しまして、ご挨拶とさせていただきます。</p> <p>最後に、配付させていただきましたが、3月28日土曜日に環境省主催の勉強会を行いました。高校1年生レベルという形で高校生と大学生又は大学院生に聞いていただくというものでしたが、今度は明日の10時から高校生と大学生が実行委員会を立ち上げて、北海道の環境を自分たちのこととして考えるということを行っています。対面では参加できませんけれども、オンラインでは参加できますので、関心のある方はぜひご覧いただければと思っています。私から以上です。よろしくお願いいたします。</p>
<p>3 報告事項 事務局</p>	<p>3番以降の進行につきましては、木村会長の進行でお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>お手元の次第に従いまして報告事項(1)町民アンケート等の結果について、説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>今年度実施しました、アンケートやワークショップの結果につきまして、総合計画策定支援業務について委託契約しております、株式会社北海道二十一世紀総合研究所で、分析などをしていただいておりますので、担当の方からご説明いただきます。</p>
<p>北海道二十一世紀 総合研究所</p>	<p>(1)町民アンケート等の結果について 株式会社北海道二十一世紀総合研究所より、ワークショップの結果及び町民アンケートを基にした南幌モデルの構築結果について説明する。</p>
<p>会長</p>	<p>ご質問やご意見などありましたらお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>町民アンケートの回答数が少ないように思います。町としてはどのくらい返ってくる予定だったのか、どのくらい集まってきたら良い数字なのかお聞きしたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>今回のアンケートにつきまして、目標回答率でいきますと、町民アンケートは4割以上、中高生アンケートは5割、企業アンケ</p>

	<p>ートは6割を見込んでおりました。実績は町民アンケートが44%、中高生アンケートが61%で目標を達成していますが、企業アンケートにつきましては、42社に送らせていただきまして回答が18件ということで、42.9%となり、目標は達成できませんでした。企業アンケートにつきましては回答率が低かったため、アンケートをお送りした企業様には、再度回答をお願いさせていただきましたが、結果としましては、42.9%でした。</p>
<p>委員</p>	<p>アンケートの回答は400件程度しか返ってきていないということですが、南幌町全体の人口からしたら全然少ないのではないかと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>町民アンケートにつきましては、住民基本台帳から無作為に抽出させていただき1,100人へアンケートを発送させていただきました。こちらは第6期総合計画策定の際も同じ考え方で件数を出させていただいたのですが、そちらも1,100件ということで、前回と同じ分母になっていますが、そのうち回答いただいたのが44%ということです。</p> <p>先ほどご説明していただいた北海道二十一世紀総合研究所とも協議しましたが、40%あれば町民の方の意向を把握できるだろうということで、本日お示ししているところでございます。</p>
<p>会長</p>	<p>ちなみに大学などでアンケートを依頼すると、回答率は10%程度と非常に厳しいです。協力は任意であり強制ではないので非常に厳しいところではありますが4割を超えているということですね。十分分析可能であるということですのでご理解いただければと思います。</p> <p>ご質問ございませんか。</p> <p>それでは報告事項の2番目、庁内策定組織についてお話しただければと思います。事務局よりお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>(2) 庁内策定組織について 事務局より議案2ページ、「庁内策定組織」について説明する。</p>
<p>会長</p>	<p>資料の数字と説明のあった数字が違っていました。</p>

事務局	<p>資料に記載されている数字は設置当初の人数で記載していますが、4月1日付の異動がありまして、係内の職員が重複しているところや新規採用職員を追加するなどの変更をしまして、人数が若干変更となっております。</p>
会 長	<p>よろしいですか。 報告事項の(3)今後のスケジュールについて事務局よりお願いします。</p>
事務局	<p>(3)今後のスケジュールについて 事務局より議案3・4ページ、「策定スケジュール概要」について説明する。</p>
会 長	<p>策定スケジュールについてご質問等ありますでしょうか。 令和8年度の会議日程については早めに確定していただくようお願いいたします。 報告事項全般を通して、質問等ありますでしょうか。</p>
4 そ の 他 会 長	<p>それでは、今後に向けての考え方やご意見等ございましたら委員の皆様から一言ずつお聞きできたらと思います。</p>
委 員	<p>町内に障がい者支援施設や高等養護学校が存在します。 その中でそういう方々が活躍できて、楽しく笑顔で暮らしていけるような町になったらいいなと思っています。 時々エコープなどで集団で買物をされていたりしますが、声かけすると相手も笑顔で返してくれるので、そのあたりを強く希望します。 もう1点、交通機関についてですが、現在、中央バスと夕鉄バスとジェイ・アールバスの3路線がありますが、最低でも現状維持していただくようぜひともお願いしたい。 あと、あいるーとは大変評判がいいと思いますので、ぜひ継続してお願いしたい。</p>
委 員	<p>普段は子どもと関わっていますが、南幌町も昔に比べるとすごい人数が減って、ちょっと寂しくなっていますが、通学路の問題が色々あって、子どもたちが自由に住宅街に入ったりす</p>

<p>委員</p>	<p>るのはどうかなと思ったりします。</p> <p>子どもに聞いても、先生は怒らないからいいと言われてたりするので学校側に言ったほうがいいのかと思ったりします。</p> <p>地域でもっと子どもたちと関わっていききたいなと思っています。</p> <p>私は農協の専務なので農業についてお話をさせていただきますけれども、南幌町の農業は規模拡大として土地利用型で1件あたりの面積が非常に大きくなっています。</p> <p>逆に言えば、農家地区の農家の方がだんだん減ってきて、人口が減ってきているというような状況でもあります。そして、その営農している方々も、子どもたちは市街地に住んでいる方も増えてきています。農業として農家地区をどうしていくのかというところを町にお願いしたい。</p> <p>町長は必ず南幌の基幹産業は農業ですと言われていていますので、何とか町と一緒に頑張って、地域を盛り上げていきたいと思っているので、今後の町政についても、色々なところで農業とタッグを組んでやっていきたいと思っていますのでよろしくお願い致します。</p>
<p>委員</p>	<p>審議会の委員はこれまで何回か参加しています。これまで色々なことを審議してきた中で、いい結果が出ていることもたくさんありますし、こうやって審議する内容が出てこないと分からない部分もありますので、出てきた中で町として我々はどういう方向に向いていったらいいのかということ審議することだと思いますので、出てきた内容についてしっかりと皆さんと審議したいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私は民生委員をやっているのですが、新しい方が入ってきている中で、特にお年寄りの方と移住された来た方とのコミュニケーションをうまくとれるようにしていければいいと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>南幌町はいい町だと思っていて、ただその良さが伝わりきっていないのかなど。</p> <p>長沼町や栗山町、ニセコなどは打ち出し方が上手だなと思っていて、おしゃれな冊子があるとかマーケティング的な部分はもうちょっとできることがあるのかなと思います。</p>

<p>委 員</p>	<p>あと、南幌町に家を建てたいという方もすごく多くて、ただもう土地がないということで、家を建てたい方もハウスメーカーの営業の方もみんな困っているところなので、その部分は早めに何かしなきゃいけないのかなと思っています。</p> <p>1点確認しておきたいところで、第6期総合計画で上がった主要課題があると思いますが、それが現状どう着地しているのかというところを聞きたいです。</p> <p>町内で飲食店をやらせていただいています、最近よく聞くのが、子育て世代の移住者が非常に多くなっているものの保育施設の不足なのか、人手不足なのかで子どもを預けられないという方もいると耳にすることが多かったので、今後そのあたりについては考えていかなきゃいけないのではと思っています。</p> <p>私自身も5年住んでいて住みよい町だと思っているので、この魅力を伝えていけるよう、頑張っていきたいなと思います。</p>
<p>会 長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>第6期総合計画の状況と、先日テレビに出ていましたけど、待機児童の関係についてお聞きしたいということですので事務局お願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>総合計画の事業につきましては、約110ほどあるのですが、町職員で各事業について評価をして、その後行政評価委員会という会議体で委員の方々に審議していただいております。</p> <p>なかなか廃止などになることはありませんが、そこで毎年評価し見直ししております。</p> <p>次に待機児童の関係ですが、3月26日のニュースで特集が組まれて放送されましたが、町内在住の方が、子どもが待機児童になったということで、その部分を掘り下げて放送されました。</p> <p>その方のお話では、町のホームページでは待機児童が当時20名ちょっとということでしたが申込み時点では62名の待機児童が出ていたとのことでした。それでその投稿者の方は子どもさんを、北広島市の保育園へ預けられたという状況です。</p> <p>それで今南幌町は若い子育て世代の方が移住されていますので、それを見越して町内の民間施設があるのですがそこをお願いをして、幼保連携型認定こども園を今年の4月から開設できるように動いていました。</p> <p>しかし、あらゆる業界で人手不足が深刻で、建築業界もまさに</p>

人手不足で、工期が今年の3月で終わらずに今年の11月まで延長となり、1年後の来春からスタートすることとなってしまいました。

今、町としては近隣市町村との連携や1日預かり、1日保育の利用なども模索をしているというような状況です。

それで、保育士の人数はどうかといいますと、早い段階から保育士等就労支援金というものをやっています。こちらは南幌町の保育所に就職していただいた方に一時金として5万円を支給し、それから勤務が始まると町内に在住した方であれば、毎月2万円を手当支給します。それから町外から通われる方は1万円を支給しますということをやっています。さらに4年勤務してもらうと一時金10万円を支給しています。

こういった取組みにより、保育部門の受入れ人数が令和2年に91名だったのが、令和7年では209名まで増えて2.3倍にはなっているんですけども先ほど申し上げた通り器が間に合わないという状況になっております。放送の中では子育て世代を呼び込んだ責任として、想定外では済まされない事態と厳しい意見をいただきましたが、コメンテーターの方からは、例えば町の公共施設で臨時的保育園などができないのかという声や、北海学園大学の先生からは施設の整備だけでなく、柔軟な政策が必要ということで、岡山県の奈義町というところでは、保育園に預けるお母さんが集中しないように、自宅での子育てを選んだご家庭には1万5,000円程度の手当を支給しているといったアドバイスもいただいていたので、施設が開園するまでの1年間をしのぐために保健福祉課のほうでもかなり動いている状況です。

委員

私は商工会で副会長をやっているのですが、最近新しいお店が結構南幌町に増えています。ただ、せっかく来てくれたのに物価高やオイルショックなどで商売を続けていけなくなると困るので、その辺の支援をちょっと考えてほしいと思います。

あと南幌町も人手不足はあるんですが、せっかくこっちに来て働きたいけど、住宅環境がないので通うとなると遠くなってしまうため来たくても来れないというのが現状あると思う。

公営住宅もほとんど埋まっていて南幌町で働きたくても来れない雰囲気があるので考えてほしいと思っています。

<p>事務局</p>	<p>本日欠席された委員の方にお電話でご意見を伺った内容についてご紹介いたします。</p> <p>まず、南幌町は現在いい流れがあるので、このままでいいと思います。しかし、気になるところでいけば現在人口増加が続いているものの、いずれは増加が止まるので、その時にどうしていくのかというのが気になる。</p> <p>次に、南幌町は子育てにはいいまちだという評価をいただいているが、それを進化させるといえるか、子どもの教育に独自性を出したほうがよい。南幌町には自然や農業があるので、そこに関連して独自性を出していけたらと思う。そしてそこに高齢者がかかわっていけたらよいのでは。南幌町の教育にはこんないいところがある、というように質を上げていけたらと思う。</p> <p>以上2名からのご意見でした。</p>
<p>会長</p>	<p>私から少しお話ししますと、先ほどの待機児童の関係も、どのように考えるかということ、因果関係だけで考えるのではなく、因果構造で考えないといけないというのがまず一つ目にあります。</p> <p>例えば商店街に空き店舗が出た際、その空き店舗をどうするかと考えると、これはもう完全にうまくいかないわけです。</p> <p>全体における商店街の役割など、そういうところを考えていけば、一つの原因でそれが発生したものではないということがわかる。これが原因だからこうなんだ、というだけではなくて色々なところに原因がある。今の待機児童の関係も非常に重要でして、せっかく一生懸命みんなやってきて人口がV字回復で増えたというのに、結局は何をやってるんだという話になってしまいますので、色々な諸条件があって、自分たちでなければなかなか解決できない部分、例えば先ほどの工期についてですね、そういう諸条件があったときにどう対処していくのかということところが大事になってくるので、できないではなく、ここまでだったらできるのではないかと、ここまでだったら今何とかできるのではないかとこのように考えて取組んでいく必要があるなと思います。</p> <p>それから先ほどお話が出てました人のつながりについてですが、人とのつながりが密接な人が長生きするんです。</p> <p>具体的な話をしますと医学の学会で発表されていますが、余命1年とがん宣告を受けた2人が同じ病室にいて、一人は人の</p>

つながりを大切にしていなかったのか、誰もお見舞いに来なくて、もう一人は毎日のようにお見舞い客が来ていました。そうすると、後者が余命宣告の3倍である3年生きたそうです。

いかに人のつながりが大事かと、やはりそれは南幌町の中で人とのつながりを大切にしていくことが重要だなというのも今お話を聞いていて実感しました。

また、地域おこし協力隊というのを聞いたことがあると思いますが、総務省では地域おこし協力隊員を全国で1万人ぐらいまで増やしていこうとしています。例えば旭川市の隣町の東川町は人口増の町です。

東川町は専門学校があり介護士や保育士を2年間で養成するんですが、東川町では介護士や保育士が少ないということで、地域おこし協力隊の任期3年のうち、2年間で、保育士や介護士として養成し、自分のところで不足してる人材を自分たちで養成する形をとっています。

これは何かと言いますと、いわゆるお金がないからできないではなくて、国のメニューなどを活用しながら自分たちの町の人手不足などの危機的なことに関して対応しています。

また後志の町では、大学院と組んで、地域おこし協力隊で来た方に大学院修士課程で2年勉強してもらいつつ、モチベーションを引き上げながら、地域に業を起こしてもらおうような形でを行っています。

このようにすべて町の単費でやっていくのは限界があるので、何らかのメニューなどを活用してくということ、皆さんも色々な立ち位置で情報を持っていた場合はこの審議会の中で議論をいただいて、それを有効に活用してまちに生かしていくということが大事なかなと思います。

私は人口については、増えればいいというものではないと思っています。いわゆる最適な人口はどのぐらいなのかを考えていく必要があるのではないかなと思います。ご存じのとおり、鎌倉市は10平方キロメートルあたりの中に2,500万人の観光客が来ています。車で入ったら市民の皆さんは2、3時間出られないんです。ただ観光客がたくさん来てもらえばいいと、関係人口を増やせばいいという問題ではないわけです。この町の最適な人口規模と、それに伴う仕事、いわゆる基幹産業も含めて大事なんだろうというところも議論していく必要があるのではないかなと思います。

私からは以上です。

事務局	<p>委員からもご意見ありましたけれども、本日まではアンケート結果などをご提供させていただきました。</p> <p>先ほど事務局から申しあげたとおり、職員でも色々検討してまいります。</p> <p>また第7期総合計画の事業などについては、細かいところではなく皆様からいただいたご意見を方向性としてどうなんだというところを肉付けさせていただいて、また職員に戻して議論を繰り返していただく会議体となりますので、今後また資料をお出ししますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。</p>
会 長	<p>総合計画を策定するにあたって大事だと思うところをまとめたチェックシートを作りましたので、次回に配付していただければと思います。</p>
事務局	<p>最近の町の状況について委員の皆さんに情報提供させていただきます。</p> <p>まず人口ですが3月1日時点の南幌町の人口は8, 226人で前年同月比プラス254人増加となっています。</p> <p>小学校は一年生が昨年84名で2クラスが3クラスとなっています。令和8年度も一年生は3クラスで人数は90名以上と聞いております。</p> <p>あと、先ほどお店の話が出ましたが中心市街地での老舗が閉店してしまっておりましたが、例えば住宅団地の中で住居兼店舗でパン屋さんとかカフェとか、あとはジェラート屋さんなどがオープンしたということで、結構町外からお客さんが来られているそうです。</p> <p>あと、農村地区で古民家を購入してカフェのような形でピザを食べることのできるお店やコーヒー豆を焙煎しているようなお店もできていて、そちらのほうも町外からお客さんが来られていると聞いています。</p> <p>それから8号沿いにgru(グル)というオリジナルフレグランスのお店があるんですが、そちらも人気で町外からお客さんが来られているというお話を聞いています。</p> <p>ただ良いことばかりではなくて、先ほどニュースの話もありましたが人材不足によって建設整備工事がなかなかうまくいなくなってしまう部分もございます。</p> <p>それから南幌流通団地といいまして、南幌小学校の道路を挟</p>

んで向かい側に今、準工業団地を整備しています。現在内定は2社ですけれども、今年10月の分譲開始に向けて現在整備中です。道央圏連絡道路の南幌ランプが今年の3月に開通しましたが、そこから流通団地までは約700メートルで非常に交通の便が良い場所になります。まだ南幌長沼間はつながっていませんが、石狩方面に行く際には利用していただくことでかなり交通の流れが変わってくるのかなと思います。そういったことで、今内定2社というお話をしましたけれども今後も企業誘致を頑張っていきたいと思っております。

それから、旧南幌高校ですがここは北海道の持ち物でしたが、学校法人立志社というところが購入されまして、来年の4月に通信制高校を開設するというお話を伺っております。それで、立志社さんは東京に本社のある学校法人で、地域に根差したいということで学校も地域の方にも色々使っていただきたいというふうに伺っています。

それから、同じく来年の4月に立志社の「札幌AIデジタルクリエイティブスポーツ公務員専門学校」という学校が開設されます。そちらの部活動などをやっている人たちをバスで連れてきて、南幌高校のグラウンドや体育館等を使ってもらうというお話もされております。ようやく開設されて、うまくにぎわうような施設になればと思っています。

最後に昨今話題になっております、釧路湿原の太陽光パネル、メガソーラー問題ですが、今色々報道されて企業側の法令違反と言われているところですが、今、国のほうでも、2030年以降に、大体20数年前ぐらいから普及してきた太陽光パネルの耐用年数が来て、大量に廃棄しなければならない見通しとなっております。

今までは基本的に太陽光パネルはいろいろ付属している部分もあってそれを取り除くのは非常に難しいということで、粉碎をして埋め立てるという処理をしてきましたけれども、2030年以降に大量に出てきた場合は間に合わない、埋め立てる土地がないという状況です。

そんな中、夕張太にある南幌工業団地の株式会社トクヤマという会社なんですけれども、NEDO（ネド：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術開発機構）と共同で、使用済太陽光パネルの低温熱分解という方法で、使用済パネルを90%再利用、リサイクルするための実証試験を2019年から昨年までやってきました。それが、今ひと段落して、今度は環境省側からさらに、

<p style="text-align: center;">会 長</p> <p>5 閉 会 事務局</p>	<p>コストダウンと効率化をしてくださいということで、研究を継続しています。使用済太陽光パネルの90%がリサイクル可能で、残り9.9%の付属している部分が使用済パネルを燃やす燃料になるそうです。</p> <p>残りの0.1%がリサイクル不可のものが出るというふうに伺ったんですが、それについてもトクヤマさんは、さらにリサイクルできるように研究していきたいというふうに言っております。</p> <p>今実証をずっとやっているそうですが、水平リサイクルといって太陽光パネルをばらして燃やして全部取り除いて9割残ったものをまた太陽光パネルに使えるという技術だそうです。また、今、イトーキさんと日立製作所さんとトクヤマさんでガラスを使って、よくオフィスなんかでガラスで囲まれた部屋があるかと思いますが、ああいうものを試作して、例えば今札幌市など再開発されていますけれどもそういったオフィスビルに販売することなどもしていきたいという風に考えているそうです。</p> <p>それで、南幌町にある事業所というのはあくまでそのテストをしている事業所で、大量に受け入れる余裕はございません。1日最大で2トトラック3台というふうに伺っております。試験を今行っており、おそらく2030年に間に合わせるように、大量にソーラーパネルを受け入れてリサイクルする施設ができてくるのではと思っています。</p> <p>ソーラーパネルをメガソーラーで敷設するだけでなく、いかにリサイクルして、役目が終わった後に対処していくかということを考えなければならないと、それを今南幌町の事業所でやっていただいているということで情報提供をさせていただきました。</p> <p>質問等ありますか。</p> <p>また情報などありましたら、次回3回目でお話しいただければと思います。</p> <p>それでは第2回目の南幌町総合計画策定審議会をこれで終了させていただきます。本日はありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
---	--